

Q

心の病気には  
どんな薬が効果的ですか？

脳に作用する薬で症状が改善！

脳は未知で完璧な治療薬もまだ…薬剤師の役割は大きい。

心の病気の治療は、  
薬をいかに継続してもらうかが鍵。

コロナ禍で心の問題がクローズアップされています。心の病気は広く、私が専門にしている統合失調症は、幻聴、幻覚、被害妄想、感情や意欲の減退、認知機能の低下で生活に集中できなくなるもの。脳に作用する抗精神病薬で幻覚や妄想、考えをまとめられない、意欲が湧かないなどの症状を改善します。ただ、体重が増えたり、手が震えたりといった副作用などもあり、患者さんが薬を中断するケースもあります。そうすると症状が悪化し、悪くなる前の状態に戻すだけでも時間がかかります。心の病気の治療は、薬をいかに継続してもらうかが鍵。今は副作用が少ない薬が11種類あり、液体のスティック型、貼り薬、舌下薬、注射（1～3ヶ月に1回投与）など薬の形も選べる時代です。

精神科外来で服薬支援と薬の満足度を調査。  
患者さんに寄り添った薬の開発につなげる！

最近は症状を抑え込むだけでなく、患者さんが社会復帰していくことを目指す治療が主体に。統合失調症は100人に1人という身近な病気です。ほとんどが20代で発症し、人生の大事な時期を病と闘わなければいけません。8割の患者さんは働けず、将来に不安を抱える人も多くいます。私は学生とともに精神科外来で医師の診察に立ち合い、服薬支援と薬の満足度調査をしています。患者さんが感じている効果や副作用、飲み心地を聞き、薬の量や処方を医師に提案するのはもちろん、より患者さんに寄り添った薬の開発につなげるのが狙いです。脳の中は今なお未知で、完治できる治療薬もまだ見つかっていません。薬剤師が治療にどう貢献していくかが大事だと思っています。



亀井 浩行 先生

Kamei Hiroyuki

名城大学出身で、剣道部の部長も務めていました。研究用のネズミにストレスをかけたとき、脳の神経や受容体はどう変化するかを研究。薬の開発、治験コーディネーターを経て、今は研究と精神科外来での服薬支援に邁進中です。

「コロナ禍になって」  
始めたもの・  
ハマったもの

自然いっぱいの公園を  
散歩して新鮮な気持ちに。

ステイホーム中は、川沿いにある自然いっぱいの公園を散歩するのが日課に。2時間近く歩いていると、海の潮や風向きで水面の高さが違ったり、カワウソのような動物など何だろうと思う生き物がいたり、いつも新しい発見があります。